

「SNS あんしんガイドブック」制作について

亀山市教育委員会

1. はじめに — なぜ、いま「SNS ガイドブック」が必要なのか

現代の小中学生にとって、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、友人とのコミュニケーションや情報収集に欠かせない、日常のツールとなっています。スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、子どもたちが SNS に触れる機会はますます低年齢化しています。

その一方で、SNS の利用には、いじめ、仲間外れ、個人情報への漏えい、見知らぬ人との接触による犯罪被害など、様々なリスクが潜んでいます。学校や家庭では、これまでも SNS の危険性について指導する機会がありましたが、単に「やってはいけない」と禁止するだけでは、子どもたちの心には響きにくいのが現状です。また、変化の速いネットの世界では、大人の知識や経験だけでは対応しきれない新たなトラブルも次々と生まれています。

そこで亀山市教育委員会は、子どもたちが SNS に潜む危険を「自分ごと」として捉え、具体的な場面でどのように考え、行動すべきかを主体的に学べる教材が必要だと考えました。本ガイドブックは、子どもたちが直面しうるリアルな事例を通して、自ら危険を回避し、責任ある行動をとるための「考える力」を育むことを目指して制作されました。本別冊と合わせて活用することで、子どもたちの健やかな成長と安全なデジタル社会の実現に貢献できることを期待しています。

2. 本ガイドブックのコンセプトと概要

本ガイドブックは、子どもたちが SNS を安全に、そして安心して楽しむための「お守り」となることを目指しています。その最大のコンセプトは、「禁止」から「共考（共に考える）」への転換です。

【コンセプト】

主体性の尊重：「ダメ」と一方的に教えるのではなく、「もし自分だったらどうする？」という問いを投げかけ、子ども自身の思考を促します。

具体例の重視：「第2章【具体例】危険な NG ワード・NG 会話集」で示すように、抽象的な注意喚起に留まらず、子どもたちが「あるある」と感じるような具体的な会話例や場면을豊富に盛り込みました。

対話の促進：本ガイドブックやワークシートをきっかけに、家庭や学校で SNS について気軽に話し合える雰囲気を作ることを目指します。子どもと大人が共に学び、考えるパートナーとなることが理想です。

【概要】

本ガイドブックは、SNS の基本的な知識から、具体的なトラブル事例、そして困ったときの相談先までを網羅的に解説しています。特に、この別冊資料で扱うワークシートは、ガイドブックの中核である「第2章」の内容と連動しています。子どもたちが事例を読んだ後に、ワークシートに取り組むことで、知識のインプットだけでなく、思考力や判断力のアウトプットまでを体験できる設計となっています。子どもたちが自らの力で SNS の荒波を乗り越えていけるよう、実践的な学びの機会を提供します。

指導者用資料

1. 指導のねらい

- ① SNS で起こりうる「仲間外し」「写真の悪用」「個人情報の漏えい」「知らない人との接触」といった具体的な危険性を、事例を通して理解させる。
- ② トラブルの当事者（被害者・加害者・傍観者）の気持ちを想像し、多角的な視点から物事を考えさせる。
- ③ もし自分がトラブルに遭遇したり、友人のトラブルに気づいたりした場合に、どう行動すべきかを具体的に考え、表現させる。
- ④ トラブル発生時に「証拠を保存する」「その場を離れる」「大人に相談する」という具体的な対処法を知り、助けを求めることの重要性を理解させる。
- ⑤ SNS を利用する上での責任を自覚し、他者を尊重する態度を身につけさせる。

2. 指導案

【対象】 小学校高学年～中学生

段階	主な学習活動	指導上の留意点（声かけ・板書など）
① 導入	1. SNS の利用状況について確認する ・ SNS の利用経験や利用時間を尋ねる。 ・ 「どんなことに使っていて便利？」 「使っていて『ヒヤッ』としたことや、いやな気持ちになったことはある？」と問いかけ、関心を引く。	・ クラス全体に問いかけ、話しやすい雰囲気を作る。 ・ 「今日は、みんなが SNS をもっと安全に楽しむための方法を、一緒に考えていきたいと思います」と授業のめあてを伝える。
② 展開	2. ワークシートに取り組む ・ ワークシートを配布し、ケース1～4の中から1つか2つ選んで取り組むよう指示する。 ・ まず、個人で考えを記入する時間（5～10分）を設ける。 3. グループで意見を共有する ・ 3～4人のグループを作り、自分が書いた答えを共有し、話し合う時間（10分）を設ける。 ・ 「自分はこう思ったけど、〇〇さんはどう思う？」など、友だちの意見を聞くように促す。	・ 机間巡視をしながら、子どもたちの考えを肯定的に受け止め、認める。 ・ 意見が出にくいグループには、「この子の気持ち、わかる？」「こんな返事もありじゃない？」と補助的な質問を投げかける。

	<p>4. 全体で発表・共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループから出てきた意見を発表してもらう。 ・特に「自分ならどうするか」という具体的な行動について、多様な意見を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書では、「どんな危険があるか」「どんな気持ちになるか」「自分ならどうするか」といった観点で意見を整理する。 ・教員が「正解」を示すのではなく、生徒の多様な考えを引き出し、それぞれの考えの良さや、別の視点があることに気づかせるファシリテーションを心がける。
<p>③ ま と め</p>	<p>5. トラブルに遭ったときの対処法を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もし、実際にいやなことや、こわいことが起きたら、どうすればいいんだろう？」と問いかける。 ・「あなたを守る3つのアクション」を提示し、説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ①証拠を残す（スクリーンショット） ②その場を離れる（ブロック・ミュート） ③必ず相談する（おうちの人・先生） <p>6. 本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSは楽しいツールである一方、使い方を間違えると自分も他人も傷つける危険があることを改めて確認する。 ・一番大切なのは「一人で悩まないこと」だと伝え、授業を締めくくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのアクションは、カードにしたり、板書で強調したりするなど、視覚的にわかりやすく示す。 ・「困ったときは、いつでも先生に相談してね」というメッセージを伝え、生徒が安心して相談できる関係性を築く。